

承した。

北海道開発局室蘭開発建設部は、知事意見を受けて、平取ダムの対応方針を作成することになっている。私たちは、知事に提出したと同様な意見・疑問をパブリックコメントで提出している。全ての意見・疑問に真摯に答えて後に、対応方針を決定することを強く求める。

2. 説明責任を果たす政治へ

今、行政には透明性と説明責任が求められている。説明責任とは、権限をもつ行政が、主権在民の憲法に基づき、行政自身の行動について事前・事後に説明する責任のことであり、裏を返せば、「説明できないことはしないこと」を意味する。

1.で述べた、高橋知事・旭川開発建設部および有識者会議は、説明責任を果たしていない。権限をもつものが自分勝手にふるまうことは、無責任であると同時に傲慢である。色々な立場から色々な意見がある中、行政は、住民の疑問・意見に対する説明を求められた際に、なんら説明することなく物事を決定するならば、内容としては独裁に近い対応になる。この独裁は、行政が担っているものが私利・私欲を隠すものとなる危険性がある。それだからこそ、行政の仕組みとして説明責任が必要なのである。

説明責任を果たす仕組みについては、文書によるやりとりだけでなく、対話を導入することである。熊本県は、川辺川ダム問題について、ダム推進の九州地方整備局とダム批判の住民との「住民討論会」を実施した。公開された討論会を通じて、住民は何が問題なのか理解できた。また、流域委員会や、私たちが批判している今後の治水対策のあり方に関する有識者会議などの、ダム問題を検討・審議する委員会について、ダム推進とダム批判の考えの委員を選出し、公開で議論をすることである。私たちが主張している説明責任を果たす行政に求めているのは、対話と議論であり、それを可能にする仕組みである。。

私たちは、ダムに関する北海道・開発局および国交省における行政が、これまでに行ってきた「国民（あるいは市民）へ回答しない政治」を脱却して、主権在民の立場に立って説明責任を果たす政治へ転換することを強く要求する。

北海道脱ダムをめざす会構成団体

- ・（一般社団）北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
- ・十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ
 - ・北海道自然保護連合 代表 寺島一男
- ・富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴
 - ・平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
 - ・苫小牧の自然を守る会 代表 舘崎やよい
 - ・ユウパニコザクラの会 代表 藤井純一
- ・イテキ・ウエングム・シサムの会 代表 佐々木義治
 - ・胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守
 - ・自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子
 - ・下川自然を考える会 会長 千葉永二

- ・ サンプルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
- ・ 環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
- ・ 大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
- ・ 旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
- ・ 当別ダム周辺的环境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子

資料

1. 高橋はるみ知事へ送った私たちの意見・疑問 (10月19日・29日)

1. 二風谷ダム堆砂問題・・・開発局の説明では、二風谷ダムには年平均108万m³の堆砂があり、ダム容量のすでに45%が堆砂で失われています。開発局は今までも、3年前にこれからは堆砂がほとんど進まないと言ったのに、3年間で140万m³堆砂量が増加しています。堆砂量が増加すれば洪水調節機能も落ちます。貴職は、開発局の言うことを信用しているのでしょうか。

2. 平取ダムの堆砂問題・・・開発局は、平取ダムの堆砂は少ないと説明しています。二風谷ダムについても当初は、100年間の堆砂量は貯水容量の15%にとどまると述べていましたが、ダムができて15年間ですでに45%の堆砂となっています。私たちは、土砂供給量の多い額平川に造る平取ダムも二風谷ダムの二の舞となると考えています。貴職は、開発局を信じるのでしょうか。

3. アイヌ民族の文化問題・・・貴職は、故萱野茂夫人の萱野れい子さんは、公述人として、アイヌ文化との関わりが深い流域への平取ダム建設について「できれば、できない方がいい」と反対意見を述べたことをご存知だと思います。貴職は、国会議員だった故萱野茂氏宅に足を運ばれアイヌ文化について意見を交わされました。れい子夫人ともきつと面識があることでしょう。貴職の個人的な思いに加えて、北海道のアイヌ民族の文化を継承・発展させることは、貴職の重要な政治的役割です。額平川流域を中心とした地域をアイヌ民族の聖地として、世界文化遺産に遺すことが、北海道の地位を国際的に高めることは間違いないと考えられます。そこに平取ダムができれば、これは夢と化してしまいます。貴職は、アイヌ文化の消失もあえて行なうほど、平取ダムを造る重要性を認識しておられるのでしょうか。

関係住民の声

回答では、「関係住民の意見」を判断材料とすると述べています。10月3日に行なわれた住民の意見を聞く場では、7名の公述人のうち4名が平取ダム反対を表明しました。このことも貴職の判断材料に入っているのでしょうか。

2. 国交省有識者会議へ送ったサンプルダム問題で開発局から回答がなく、有識者会議が無視した問題 (10月26日)

1. 北海道開発局住民アンケートではダム希望は7%にすぎない。

1998年に北海道開発局が、天塩川流域約5,000世帯に行なったアンケート結果では、洪水・土砂災害に対する安全性では、安全：55%、ある程度安全：34%、合せて89%が安全だと思うと回答し、危険と思う意見は2%でした。洪水対策として具体的に進めてほしいことは、河岸保護工・堤防強化・河道掘削・内水対策合せて97%、ダム整備は7%

でした。北海道開発局は、ダム建設を行わず、自らの河川改修の実績に誇りをもって仕事をするべきではないか。

2. 地域振興のためにダム建設をすすめるのは許されることでしょうか？

サンルダム建設をもっとも強く主張しているのは、ダム建設の現場である下川町です。しかし、サンル川は下川町を流れる名寄川下流で合流するため、下川町の治水にとってサンルダムの効果はありません。下川町は治水ではなく、下川町の地域振興のためにサンルダム建設を要望しています。この点について、北海道開発局の見解を質しましたが、回答はありませんでした。

3. サンルダム建設ではなく、名寄川の河道掘削案がベストである。

北海道開発局が作成した報告書によれば、サンルダム案（1案）と河道掘削案（2案）の主な違いは、河道掘削量です。1案では880万 m^3 、2案では1430 m^3 です。1案の残事業費は760億円（そのうちサンルダム洪水調節残事業費は130億円）、2案では940億円（そのうちサンルダム関係は310億円）で、2案は1案より180億円大きな値となっています。

私たちは、2案は金額的には1案より約180億円必要になりますが、以下の理由でベストであると考えます。

ダム案にはデメリットが多くあります。とくに焦点のサクラマス保全については、開発局はモニタリングしながら進めると述べていますが、日本のみならず、世界的に魚道によってサケ類の保全に成功した例はありません。現時点ではサンルダム魚道がどれだけサクラマス保全をできるのか、まったく不明です。一度ダムを造って、サクラマス保全は不十分であるということが判明しても、とりかえしがつきません。サクラマス保全に成功しなかった場合の損害額を北海道開発局は示していませんが、サクラマスの漁獲量と遊漁としてのヤマメ釣りなどを加えた金額に、ダム下流の環境悪化を保全するための金額などを考慮すると、かなりのものになります。さらに、魚道建造費とその維持管理費を含めると、すこし長い目でみれば180億円の差は逆転すると考えています。河道掘削案では何よりも、確実にサクラマスが保全されます。私たちの提案について、北海道開発局はノーコメントです。ぜひ、私たちの提案をご検討ください。

4. 北留萌漁協と北海道開発局の約束及び前川北大名誉教授の意見

2012年8月23日に行なわれた、有識者の意見聴取で、北留萌漁協の蛭名専務理事は次の意見を述べた。「資源の安定性や環境保全、移動連続性という観点から鑑みると極めて重要なバイパス水路の全体計画を示すと共にバイパス水路が移動連続性に与える影響等について、専門

家による検証とその結果を示し、その最善策の検討することが、我々が条件を付した項目に適するか否か、今後漁業者が最終判断できるよう真摯な協議対応を求める。」ここで述べられているバイパスは、いわゆる魚道のことで、魚道によるサクラマスの保全が十分かどうかについての判断は今後にかかっていると述べています。

同じく、前川光司北大名誉教授（魚類学）は次のように述べました。「開発局資料には、サンルダムの建設に伴うサクラマス保全に対して魚道の効果が確かめられるまで、ダムはつくるけれども湛水しない方針であると書かれています。こんなこと普通は考えられないというか、魚道が機能しない場合、無駄なダムがつけられたことになり、これをどうする

のでしょうか。どうしてもダムが必要だと考えるのであれば、ダムをつくる前にきちっとした魚道をつくって、その効果を確かめてはどうでしょうか。無駄をなくすためです。北海道開発局は最終報告書で、ダムのサクラマスへの影響を最小にすると述べていますが、放流に頼ることなく現在のダム上流部の個体群を維持することです。これが「最少化」の意味です。これに沿ってやってください。

委員の皆さまには、1) 北海道開発局がサンルダムを建設するには、北留萌漁協との約束の前提条件があるということ、認識していただきたい。2) 北海道開発局が「サクラマスへの影響を最小限にする」と述べていますが、最小限の具体的内容を示していませんので、そのことも認識していただきたい。前川名誉教授が述べているように、「ムダをなくすために、ダムを造る前に魚道の効果をきちっと調べるべきである」ことを実施するようにご検討いただきたい。